

參謀格であつた、豫算編成の時など、例へば線路の經濟調べや橋梁の練瓦のボリュムや、其他計算上の割出しなどには仙石さんが決めた公式を使用したものである。

當時は芝區の汐留に鐵道廳があつて、構内に臨時調査事務の爲めにバラツク建三棟を設け、其所へ九州とか、中央線とか、東北線とか、各方面の調査に出張した技術員、事務員が歸つて來て、線路の設計に從事した、私達も出張地から板谷峠の雪中を強行して十一月末日歸京し、其の年内に議會に建設案を提案しようと云ふのであるから、毎夜十二時過ぐるまでも夜業をする有様であつた。

尙ほ仙石さんの事で特筆すべきは、明治二十六年に日本に於て初めての鐵道廣軌論を發表された、其時は運輸部長であつたと思ふ。

話は、前に戻るが現在の中央線の一部をなしてゐる、東中野から立川に至る線路が、帝都の郊外であり乍ら能くあの様に一直線に出

來たものと思はれるが、あれも甲武線時代に仙石さんが測量設計をして、日本國內に無二の長き直線が出來上つたものである。

當時大久保附近には植木屋が多くあつて、鐵道が敷かれると云ふので、一晩の内に種んな木を植ゑたりなどして、移轉料を得やうとしたものだが、仙石さんはそんな事には關係せず、曲線一ヶ所を入れたのみで、其先はあの長い一直線にされた。恰度ロシャの皇帝ツァーがモスコーカラ、ピータースブルグまで鐵道線路を決める時に、圖上立處に一線を入れたのが現在の直線鐵道となつてゐるのと相似てゐる様である。今日中央線の電化になつても、あの直線々路が大變有効なものとなつてゐる。

尙ほ明治二十七八年役、即ち日清戰爭の時は陸軍省御用掛りとして陸軍と鐵道省とに立ちて偉功を奏せられた事も大なる事績である（文責在記者）

## 科學的管理の先覺者だった

那　波　光　雄

私が青年時代、關西線の揖斐川架橋工事を終り、賜暇上京中に、先輩松本莊一郎博士を其遞信省の官舎に御訪ねしたら、松本博士は技術家としての修養に關する教訓的な事を種々と私に述べられた。其時に松本博士は實例として仙石さんが技術家として常に讀書研究に努めてゐる事を話された。

私は仙石さんにはそれまで一面識もなく、其時初めて仙石貢さんと言ふ人は、そんな讀書家であると言ふ事を知つた。

仙石博士は晩年になつても、讀書には努められてゐた。丸善書店に新着する外國書の一冊の注文者は仙石さんであつたと聞いてゐる特にサイエンチツク・マネーチメントに關しては非常な先覺者であつた。

社會經濟に關する仙石博士の議論は何れも實際的な根據があつたもので、現に先年の官吏減俸案に對しては極力反対され、遂に濱口内閣でも其閣議を撤回した様な次第である

土木學會が會長として仙石博士を推薦した時、博士は、自分は既にエンヂニアではない、方向轉換をしてゐるものだと固く辭して受られなかつたが、前會長の廣井博士と原田博士と二人で懇々と頼んでやつと會長を受諾された。

土木學會々長講演としての仙石博士の意見は立派なものであつた。特にエンヂニアとして總てを知るの常識を養ふと同時に、專門技術中の何か一つに深く通じてゐなければならんと言ふ事を切言されてゐた。